

Yahoo! BB が 打ち砕く

ADSLの 常識

8月1日よりソフトバンクとヤフーが開始するADSL サービス「YAHOO! BB」の内容は、これまでわれわれがADSL に対して抱いていた常識を大きく塗り替えるものばかりだ。YAHOO! BB がもたらした波紋は日本のインターネット業界を衝撃波となって広がっている。そこで、ここでは接続事業としてのYAHOO! BB を多角的に検証する。

取材・執筆 山崎潤一郎

月額料金 990 円、最大速度 8 Mbps の衝撃

YAHOO! BB は月額利用料が他社の約半分、最大速度も 8 Mbps と他社平均の 1.5 Mbps に大差をつけている。まずはそのサービス内容をくわしく見てみよう。

YAHOO! BB の月額利用料 2,830 円(モデムレンタルの場合)は、定額制の常時接続なのでほかに電話代もいらなければ、フレッツ・ADSL のように別途プロバイダー料金を払う必要もない。しかも他社の通信速度がおおむね最大で下り 1.5M ~ 1.6Mbps、上り 288k ~ 512kbps なのに対し、YAHOO! BB は下り最大 8Mbps、上り最大 900kbps を誇る。

そのうえ予定のエリア展開計画が半端ではない。サービス発表会見でソフトバンクの孫正義社長は「年内に100万加入を目指す」と明言。エリア展開計画を見ると年末までに

すべての都道府県で開始するとしている。

しかし、最近のADSL 業界を取り巻く状況は決して明るくはない。5月末にADSL ベンチャーの草分け、東京めたりっく通信の経営危機が報じられ、現在同社はソフトバンクの傘下で経営の再建を計っている。また、三井

物産が出資するガーネット・コネクションズがサービス開始前に解散撤退を決めるなど、ADSL 業界に逆風が吹くなかでの大胆な低料金設定での参入で「YAHOO! BB は大丈夫か? 」という声が聞こえてくるのも事実だ。

bb.yahoo.co.jp

各 ADSL サービスの料金比較 (個人向け、YAHOO! BB 以外はプロバイダーは@nifty の場合)

	初期費用	月額使用料合計	その他費用	利用者数
フレッツ・ADSL (NTT 東西)	3,600 円	3,800 円 + 2,000 円 (ISP 料金)	-	約 9 万 5000 人
イー・アクセス	25,300 円	5,800 円	-	約 3 万 5000 人
アッカ・ネットワークス	19,600 円	5,800 円	工事費 15,000 円	約 1 万人
J-DSL	5,800 円	5,700 円	-	約 7000 人
YAHOO! BB	3,600 円	3,017 円	-	非公開

初期費用に含まれるモデム代はレンタルの場合。

は YAHOO! BB 発表後に値下げをしたもの。数値は 7 月 10 日時点。

ライバルADSL事業者は静観、ISPは脅威を感じる

YAHOO!のADSL参入を業界はどのように見ているのか。ライバルADSL事業者とプロバイダーに話を聞いた。

事業者

同レベルの価格競争はしない イー・アクセス



イー・アクセス
株式会社
社長室
ヴァイス・プレジデント
小林英夫

「イー・アクセスのサービスは、回線品質やサポートなどトータルな商品としてのコストパフォーマンスに注目してほしい。YAHOO! BBのサービス発表直後は、多少の申し込みキャンセルが出たが、その後は、基本的に変わらぬ申し込み数を維持している」と、ADSL事業の先輩として、サービス性能に関する説明責任とサポートの大変さを強調する。「弊社でも『最大1.5Mbps』という文言が一人歩きして速度が達しないユーザーからの苦情が多い」と打ち明ける。回線距離や品質により速度が左右されるADSLの特性をユーザーにどれだけ理解してもらえるか

が、顧客の満足度を握るカギとも言える。また、「有料サポートでどの程度ユーザーを満足させられるかわからない」と（同氏）とYAHOO! BBのサポート体制を心配する。

「YAHOO! BBへの対抗策として、この秋をめどにAnnex C G.dmt規格のモデムを導入して高速化を予定している。ただし、現時点では料金などの詳細は未定。また、料金面では、一部で初期費用の大幅値引きや契約月無料キャンペーンなどを実施しているが、YAHOO! BBと同レベルでの価格競争は無理だし、する気もない」と（同氏）と言い切る。

調整中で話せることはない 東京めたりっく通信

YAHOO! BBについて同社の広報に取材を依頼したところ、「YAHOO! JAPANに聞いてください」とのことだった。事実上ソフトバンク傘下に入ったが、サービス内容や今後の体制などについては調整中のため、現状で話せることはないという（7月5日時点）。

特に意識はしていない NTT 東日本

「YAHOO! BBを特に意識していないし取り立てて対応策を打ち出す必要もない」と語る

のはNTT東日本の広報だ。YAHOO! BBの報道後に発表されたフレッツ・ADSLの値下げは、3,800円にとどまった。ただ、これから年末にかけてのYAHOO! BBの展開次第では、NTTとて安閑とはしていられないだろう。とはいえ、NTT地域会社には、現状、プロバイダー事業に参入できないという法的な足かせがあるためYAHOO! BBのような戦略的な価格設定は難しい。

ISP

安心と信頼で対抗する @nifty



ニフティ株式会社
社長室室長、宣伝部部长
宮坂修史

「われわれとは違った考え方でビジネスモデルを形成しているのと同じ土俵で比較することができない。市場が求める金額に合わせて料金体系を決めるYAHOO! BBのやり方は、既存のプロバイダーとは違ったアプローチであり、別の次元のこと」と困惑した表情を見せる。ただ、YAHOO! BBの打ち出したプロバイダー込みのADSL料金は@niftyにとっても驚異であることには変わりない。

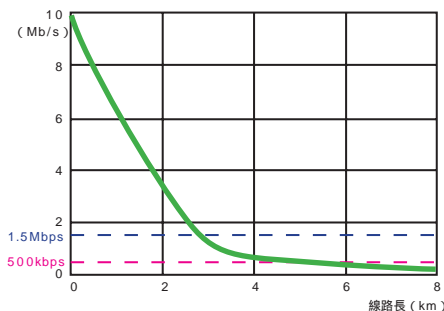
ただ、1986年にパソコン通信としてスタートした@niftyだけに、その長い経験から「ユーザーを満足させるサポート体制と信頼されるコンテンツとコミュニティ作りでは、ひけを取らない」と（同氏）と自負する。実際、@niftyではコンテンツとコミュニティの売り上げは15パーセントに上るといふ。

一方、ページビューでは圧倒的な強さを誇るポータルサイトの最大手YAHOO! JAPANだが、接続事業を持たないためユーザー課金の面が弱点とされてきた。YAHOO! BBで課金の手段を得たYAHOO! JAPANと、歴史と信頼を前面に打ち出す@niftyとの戦いの幕が切って落とされた。

Yahoo!BBサービスの料金

	タイプ1 (電話とADSL共通)	タイプ2 (ADSLのみ使用)
最高速度	上り8Mbps、下り900kbps	
初期費用 (NTT契約料・工事費用)	3,600円	
月額費用ADSL 接続サービス	990円	
ISPサービス	1,290円	
高速ADSLモデム レンタル費用	500円	
スプリッター レンタル費用	50円	—
NTT回線使用料	187円	2,062円
月額料金合計	3,017円	4,842円
利用者数	非公開	

Annex Aの伝送速度と距離



YAHOO! BBが使うAnnex A G.dmt規格の回線距離と実効通信速度の関係を表したグラフ。電話局からの距離が遠いほど速度が落ちている。YAHOO! BBでも8Mbps程度出るのは局から近いユーザーだけとなるだろう。

(出所: NTT xDSL フィールド実験ホームページより)

YAHOO! JAPANはブロードバンドコンテンツで稼ぐ

相場の半値でADSL事業に参入したYAHOO! BBだが、利用料金の採算性や事業計画に対する疑問の声も多い。はたしてYAHOO! BBに勝算はあるのか！？

まずは価格ありきの戦略

YAHOO! BBは、サービス発表直後の6月20日から予約申し込みの受け付けを開始したが、開始から24時間で申し込んだ人数が「5月末のADSL加入者数（約18万人弱）を超えた」（孫社長）と発言するだけあって、一般ユーザーの関心は非常に高い。現に通常のダイヤルアップ接続で電話代とプロバイダー代を合計して月額3,000円程度を支払っているユーザーは多いだろう。そのようなユーザーから見れば、月額2,830円という、現状と同程度の料金でブロードバンドと常時接続が手に入るYAHOO! BBは大いに魅力だ。この金額は従来のADSLサービスと比較すると半値に近い料金で、これは世界でも類を見ない。そのためか、サービス開始2週間で、ヤフーの第1四半期決算のうち、YAHOO! BBの売

り上げはすでに7億4,800万円に上る。

ただ、このようなYAHOO! BBの「半値」戦略に採算面から疑問を投げかける声は多い。それに対し、ヤフー株式会社、YAHOO! JAPAN編集長の影山氏は、「まず価格ありきの戦略を考えた」と打ち明ける。そして、その価格を実現するために「事業採算の損益分岐点を300万人の加入に定めている。そうすることで、ADSL機器を大量発注でき、大幅にディスカウントして仕入れることができる」と、採算度外視の戦略でないことを強調する。また「バックボーン回線に関しても、NTTの同舎間とインターネットへの接続にはダークファイバーを利用することで1Gbpsという大容量回線を低コストで用意している」とも語る。

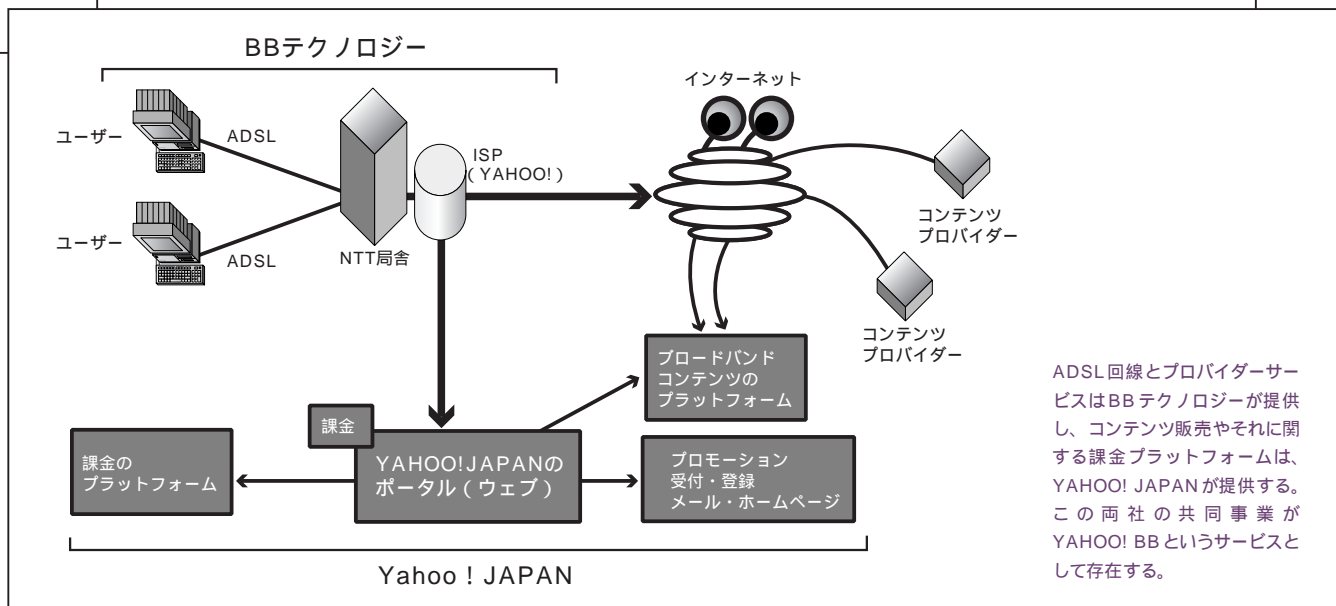
月額利用料金の内訳を、ADSL回線費用990円、プロバイダー料金1,290円と分けて表示している点に関しては、「フレッツ・ADSLとの比較を明確にして、そのうえで値頃感を出したかった」（同氏）と、あくまでも値付け先行型の料金設定であることを隠さない。確かに、ADSL回線費用990円だけを

見ると、フレッツ・ADSLの3,800円と比較するのばからしくなるくらい圧倒的に安い。

YAHOO! JAPANは課金のプラットフォームになる

ちまたでは、YAHOO! BBの収益はADSL回線部分だけではなく、YAHOO! JAPANのホームページで販売するコンテンツの売り上げにも依存するという報道がされている。下の図に示すように、ADSL回線や、ホームページ、メールといったプロバイダーサービスは、ソフトバンクグループのBBテクノロジーが提供し、コンテンツ販売やそれに関する課金プラットフォームは、YAHOO! JAPANが提供するというように明確に役割分担されている。つまり、収支の点においても、回線やプロバイダー事業からの収入とコンテンツからの収入は明確に分かれるとされており、影山氏も「ヤフーが株式会社公開会社である以上、収支の切り分けはきちんとしなければならない」とあくまでも財布は別であることを訴える。となると、ますます、ADSLの接続事業を担当するBBテクノロジーの採算性が心配になるが「基

YAHOO! BBのサービス構成



本的には両社がしっかりと採算を取って運営するというスタンスであり、接続事業の分岐点を300万人加入に置いてはいるが、500万人、1000万人の加入を目指す」（同氏）と鼻息は荒い。また「今、われわれが用意できるラストワンマイルがたまたまADSLなだけであり、将来、光ファイバーが可能になれば、FTTHサービスも当然視野に入れている」とも語る。

年内に100万人の加入は可能

YAHOO! BBが打ち出したエリア展開計画にも疑問の声が聞かれる。同社では年末までに100万人の加入を目指すとしているが、これを単純に日割り計算すると残り半年で1日5600件近い開通工事を行わなければならない計算になる。たとえYAHOO! BB側が体制を整えたとしても、ユーザーからの回線を収容するDSL装置を設置するための電話局がNTTのコントロール下に置かれているため、NTTの対応いかんによっては、思うようにエリア展開ができないという見方も根強い。「確かにそ

の部分はネックになるが、今後、現場レベルの対応をどう切り崩していくかがポイントだ」（影山氏）と、その問題は織り込み済みであるという。そのうえで「これまでに開通した例から判断すると年内に100万という数字は決して無理な数ではない」（同氏）と力説する。また、試験サービスとして、ブロードバンド向けコンテンツを備えた「Yahoo!ムービー」を公開するなど、「ユーザーの拡大と、それによる弊社のメディアとしての価値増加が、最大かつ直近の目標」（井上雅博ヤフー社長、決算発表時）とする。

「安くて速い」は通信事業者にとって最大の武器だ。これはユーザーにとってみれば、願ってもないことではあるし、YAHOO! BBが相当数の加入者を集めることは想像にかたくない。だが、われわれは、特定の通信事業者1社だけが一人勝ちしたあとの怖さについても忘れてはならない。資本にものを言わせてダンピングとも言える料金で同業他社から競争力を奪い取り、市場を独占したと見るや、こんどは値上げに転じる。過去に海外の通信業界で幾度となく行われてきた戦略だ。



ヤフー株式会社
YAHOO! JAPAN
編集長
影山 工

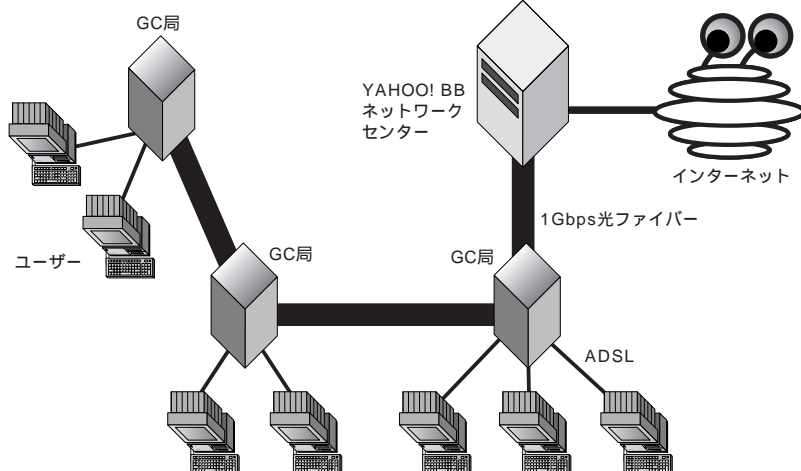
Photo :
Tokuhiro Watari

YAHOO! BBが、同じ道を進むかどうかは誰にもわからない。だが、われわれはその成り行きをしっかりと見据える必要がある。

また、コジマがECを狙ってイー・アクセスのADSL回線を利用したISP事業に月額3,800円の低価格で参入するなど、ライバルも登場している。

ある大手ADSL事業者幹部が「通信事業は実業であって投資事業ではない」と語るように、孫正義氏率いるソフトバンクが「ブロードバンド」というキーワードに向けてぶつけてきたYAHOO! BBという投資事業が、今後どのように実を結ぶかは、本格的なサービスが稼動する年内に答えが出るだろう。

1Gbpsの光ファイバーで高速化を実現



ユーザーからの回線を収容するNTTの各局舎(GC:Group unit Center)間はダークファイバーを利用した1Gbpsのバックボーンを用意しているため、通信の快適性は確保されるという。また、同社では米国やアジアにも合計で10Gbpsの国際回線を用意している。

コンテンツ配信の内容



ビデオ・オン・デマンド
株値のリアル表示
ゲーム
電子出版
写真集など

(8月1日のオープンを目指す。各100円を課金の予定。)



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp